

# 環境負荷の低減

マテリアルバランスを把握し、環境負荷の低減に努めています

## マテリアルバランス

### 事業活動にともなう環境負荷を把握してその低減に取り組んでいます

日本製紙グループでは売上高の約83%を占める紙・パルプ事業を中心に幅広い事業活動を展開しています。国内の

紙・パルプ事業は、国内全事業の水使用量の約92%、CO<sub>2</sub>排出量の約96%を占めており、マテリアルバランスの上でも大きな割合を占めています。

紙の原材料は、木材チップや古紙が中心となります。これらをパルプにし、水中に分散したパルプ繊維を薄くシート状

にし、それを乾燥させることで紙をつくります。パルプの製造や紙の製造(抄紙)では、熱源として蒸気を、動力源として電気を使用します。製紙工場では、燃料を燃やして蒸気を発生させるボイラーと、その蒸気を利用して電気をつくるタービン発電機からなる自家発電設備を設置しています。

パルプや紙の製造にともなって、水質汚濁物質を含む排水が、またボイラーからは大気汚染物質やCO<sub>2</sub>を含む水蒸気が出ます。そして、ボイラーで燃やした燃料の灰が廃棄物となります。当社グループでは、これらの環境負荷を低減する取り組みを進めています。

マテリアルバランス(主要物質)<sup>※1</sup>

[単位] GWh=ギガワットアワー BDt=絶乾トン ADt=風乾トン



※1 2016年度から集計対象組織を変更。アマパフロレスタル・エ・セルローズおよび日本ダイナウェーブパッケージングを加え、また日本製紙USAを除外しました

※2 バイオマス燃料および廃棄物燃料  
※3 国内のみ



国内紙・パルプ事業のフローとマテリアルバランス(主要物質)

